

2013 年度 第 1 回 農村計画本委員会 議事録（案）

開催日：2013 年 7 月 15 日（月）11:00～

場 所：建築会館

出席者：委員長：岡田知子

幹 事：神吉紀世子（Skype）、栗原伸治、北澤大佑（文責）

委 員：井原満明、熊野稔、斎尾直子、篠部裕、鈴木孝男、山崎寿一、山崎義人（Skype）

I. 確認事項

前回（2012 年度第 5 回本委員会）の議事録を確認した。

II. 確認事項

1. 学術推進委員会関係

(1)2012 年度小委員会活動報告

- ・ 小委員会活動成果報告について確認された。

(2)委員会等における女性会員の参画機会の拡大についてのお願い

- ・ 男女共同参画委員会からの通知について確認された。

(3)2014 年度開始特別研究委員会公募

- ・ 年々応募数が減少しているため、積極的に応募すること。

(4)2014 年度開始〔若手奨励〕特別研究委員会公募

- ・ 分野横断的に研究者を募り、積極的に応募すること。
- ・ 応募締め切りは(3)、(4)ともに 10 月 25 日まで、次回委員会（大会開催時）でも検討を行う。

(5)2012 年度出版物販売状況

- ・ 出版物の販売状況を確認した。

(6)2012 年度講習会・シンポジウム等開催結果

- ・ 農村計画委員会では計 4 回の研究会を開催している等、開催結果を確認した。
- ・ 出席者が少ないことが代議員より指摘されている。地方開催が多いため仕方がない面もあるが、今後もできるだけ参加者を広く募集するよう努力する。

(7)調査研究委員会におけるシンポジウムの運営方法について

- ・ 特に採算性について、学術推進委員会からのお願いについて確認した。

(8)2014 年度委員会活動計画案・予算原案および関係書類提出依頼

- ・ 農村計画委員会は、2014 年度から新体制（新しい小委員会構成）に移行する。

(9)2010-2012 年度調査研究委員会活動報告：代議員による委員会活動評価

- ・ 主に「研究会等の参加者が少ない」「都市計画分野との棲み分け」「複数の小委員会を掛け持ちしている委員が多い」等の意見があった。

- ・ 今後益々、農村計画分野の存在意義を PR していくことが求められていく。

2. 大会関係

(1)2014 年度大会開催会期・会場と準備日程

- ・ 締め切り 4 月 8 日、プログラム編集委員会 4 月 22 日となる。

(2)2013 年度大会学術講演会・建築デザイン発表会発表表題数／オーガナイズドセッション投稿数

- ・ 農村計画分野は、前年度より 22 題増加したことが報告された。

(3)2013 年度学会賞（論文）受賞者記念講演ならびに（技術・業績）受賞作品展

- ・ 2 日目午後に柳田先生の記念講演を開催、あわせて構内で受賞記念祝賀会が開催される。
- ・ 技術・功績部門で神吉先生が受賞、パネル展示が行われる。

(4)2013 年度大会農村計画部門研究集会（研究協議会・研究懇談会）

- ・ 8 月 31 日（土）13:45～17:00 研究協議会「自立と循環の国土－北海道の地域づくりを考える」が開催される。
- ・ 9 月 1 日（日）9:30～12:30 研究懇談会「集落に根ざす住まいの再建－東日本大震災からの復興」が開催される。

Ⅲ. 審議事項

1. 大会関係

(1) AIJ デジタルライブラリー：2013 年度大会研究集会資料の会員限定無償公開アンケート

- ・ 農村計画委員会の方針（大会終了後 1 年経過後、会員限定無償公開する。）を確認した。
- ・ 今後、協議会等資料については、「〇〇年にデジタルライブラリーに公開される」旨を一筆入れておくのはどうか（報告書の出所や著作権等の問題から）。これまで「無断掲載・・・」について書かれていた文言を変える必要があるのではないか。

(2)2014 年度大会 OS、発表部門細分類・細々分類の検討依頼

- ・ 今年度の様子をみていると、来年度も震災関係の投稿は多いのではないかと。
- ・ 近畿・西日本における災害後の復興状況（更地化が進められている等の問題が顕在化している）といった課題も視野に入れてはどうか。
- ・ OS は、水害などの災害や震災復興などを含めた災害対応をテーマにして検討する（次回委員会でも審議を諮る）。
- ・ 細分類、細々分類については、各分野ごとの投稿実績の整理をするべきでは。
 - 次回プログラム編集委員会で集計作業を行ってみる。
 - 投稿数が少なくとも無くしてはいけない分野はある点を考慮する必要はある。
 - 近年、他分野から流れてくる例（建築、歴史・意匠、都市系 [農とまちづくりなどをテーマに] など）もあることを踏まえて、他分野の分類を確認して、投稿数増を図るため戦略的な分野設定を検討してもよい。
 - 近畿支部では、留学生が母国での調査研究結果の報告が増えている傾向がある（全

国的な傾向をみる必要がある)。

(3)大会学術講演会における若手奨励について

- ・ 若手奨励、議論の活発化などを狙い、大会発表を行う 20 代の研究者から奨励賞を出すことが検討されており、今年度実施が可能な常置委員会で試行することになった（材料施工、歴史、構造 [シェル空間構造部門では実施済み] などの分野で実施が検討されている）。
- ・ 農村計画委員会では、過去に「一押し」を行っていることから、試行することとして、20 代を対象として、全体の 1 割程度を表彰し、審査は梗概と発表を対象に審査を行い、各セクションの司会者、主査・幹事による二段階審査をする（司会の評価を主査・幹事がとりまとめる）。
 - 発表者本人が研究に携わっているかどうかの確認をどのように行うのか。審査にエントリーするかどうかの本人確認をしてはどうか。
 - 評価の対象は、あくまで本人がエントリーしたものに限り、事務局から、投稿者とのメールでのやりとりで事前エントリーの確認が可能かどうかを確認する。
 - 当日、会場に張り紙をするなど、当日エントリーも受け付けることを検討する。
 - 関東支部の若手奨励賞の評価基準を確認して検討を行う。

2. 推薦依頼関係

(1)2014 年日本建築学会大賞候補業績

- ・ 次回委員会で検討、審議する。

(2)2014 年日本建築学会文化賞候補業績

- ・ 中越震災復興関係で山古志の活動組織が候補として検討してはどうか（来年で中越震災 10 周年）。
- ・ 詳細は、次回委員会で検討、審議する。

(3)2014 年日本建築学会教育賞（教育業績）候補業績の推薦依頼

- ・ 次回委員会で検討、審議する。

(4)卒業論文等顕彰事業委員会委員の推薦依頼

- ・ 山崎義人君を推薦する。

3. 本委員会関係

(1)催し物実施報告：文化的景観フィールドスクール 2013「日根荘の里・大木の文化的景観」

- ・ 農山漁村文化的景観小委員会より、開催報告がされた。

4. 委員会オンラインストレージ「資料閲覧者」募集実施の是非について

- ・ 閲覧希望があった場合、それぞれの小委員会で対応する。

5. 『東日本大震災合同調査報告書』進捗状況について

- ・ 今年度中の発行を予定している。
- ・ 著者は担当委員からの依頼を受け、締め切り等についての連絡を受けている。

6. その他

(1)2014 年度以降の小委員会構成について

- ・ 新メンバーの公募は行ったほうが良い。
- ・ 科研を一つのターゲットにして人集め、企画を行い、科研応募のメンバーを中心に小委員会を構成するとテーマ、メンバー、資金がはっきりして良い。
- ・ 国際交流基金がなくなるが、日韓交流が継続するためアジア農村フォーラム WG は活動を続けるべきである。

次回委員会 大会期間中 2 日目 8 月 3 1 日 1 2 時より

以上